

目的 衣服を設計するにあたり、人体の形状を把握することは最も重要な課題である。現在はコンピュータの進歩などに伴い、計測されたデータから人体そのものを再現することもかなりたやすくなっている。今後はそこから発展して衣服設計への具体的な手がかりをつかむことがより重要な課題であろう。そこで今回は、若年女子の腰部横断面データをもとに腰部体型を分類し、スカート設計上、フィット性の重大なポイントとなるダーツ位置、ダーツ量およびゆとり量の適合性を検討した。

方法 若年女子27名の被験者について、スライディングゲージ法により、ウエスト、中ヒップ、ヒップの各横断面を測定し、横断面円周上のX、Y座標をコンピュータに入力して、クラスター分析により腰部の体型分類を行った。また、各横断面円周上の曲率を移動平均法で平滑化した値と各横断面を垂直方向にスプライン補間して求めた縦の曲率近似値をもとに作成した腰部の3次元曲率分布からダーツ位置、ダーツ量を求めた。

結果 若年女子27名のウエスト、中ヒップ、ヒップの横断面データをもとにクラスター分析により自動分類した結果、腰部体型が2群に大別された。各群の曲率分布の平均値からダーツおよびゆとり量を算出しフィット性を検討したところ、体型に適合し、有効性が認められた。